| 重点目標 | | 具体的取組 | | 主担当 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果と課題） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 教育活動の成果を積極的に発信し、家庭や地域から信頼される学校づくりを推進する。（ホームページとメール配信の効果的活用、小中学校との連携強化、積極的な学校公開） | ① | 教育に対する多様な保護者・地域住民の要請にこたえていくために、ＰＴＡや地域に対して本校ホームページや学校メールを効果的に活用し、タイムリーな情報を提供し、開かれた学校づくりを推進する。 | 総務課 | 本校のホームページやメール配信が学校の教育活動を知る上で役立っていると思う保護者が<br>A　95%以上である<br>B　85%以上である<br>C　80%以上である<br>D　80%未満である | B<br>(86%) | 今年度はホームページを見やすくし、トップページの写真や本校イメージキャラクターの「かがんこちゃん」を毎月変えるとともに教職員メッセージを掲載して親しみやすくした。また、行事等は速やかに配信するようにした。月ごとの閲覧数が大幅に伸び満足度がアップしたと感じている。今後は授業の様子等を掲載し一層充実させていく。 |
| | | ② | 近隣の小中学校等との交流活動や地域の活動に積極的に参加するとともに、学校公開し開かれた学校づくりを推進する。 | 総務課<br>生徒指導課（特活）<br>保健環境<br>教育相談課 | ボランティア活動以外で地域の諸活動に参加したり地域の方々（小・中学生含む）を招く活動に参加したりした生徒の割合が<br>A　60%以上である<br>B　55%以上である<br>C　50%以上である<br>D　50%未満である | D<br>(38%) | コロナ禍により、地域の活動が少なくなったわりには、38%の生徒が参加していた。町内の清掃等が多かったが、クリーンビーチいしかわや柴山潟清掃に参加した生徒もいた。学校で経験したボランティア活動において有用感を感じたりしたことが地域貢献につながった。 |
| | **学校関係者評価委員会の評価** | | | | ・総合学科の魅力は、高校進学時にまだ進路希望が固まっていない生徒にも対応できるところであり、その魅力を中学生に発信して欲しい。 | | |
| | **学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策** | | | | ・例年、教員や生徒が加賀市内中学３年生へ本校を紹介する機会がある。説明内容を充実させたり、体験入学の内容を改善したりして、総合学科の魅力を伝えていく。また、選択科目等での特徴的な授業の様子や資格取得状況等もＨＰに掲載するなど内容を改善し、本校の魅力を発信していく。 | | |
| 5 | 教職員のワークライフバランス及びタイムマネジメントの意識を高め、多忙化改善に向けて時間外勤務縮減に取り組み、生徒と向き合う時間を確保する。（多忙化改善PTの活性化による時間外勤務の実態把握及び業務改善） | ① | 教員一人ひとりの時間外勤務についての実態把握を行い、個人の時間外勤務の傾向を掴む。 | 多忙化改善PT | 昨年度より時間外勤務が縮減した教員の割合が<br>A　70%以上である<br>B　60%以上である<br>C　50%以上である<br>D　50%未満である | C<br>(55%) | コロナ禍による教育の質を低下させないことへの対応等で教材研究が昨年度比121%、臨時休業の延長・再延長等により行事計画の練り直し等で校務分掌業務が108%と増えたことが時間外勤務縮減を妨げたと思われる。簡素化できる業務を見つけ実践していく。 |
| | | ② | 教職員の多忙化改善に向けて、業務の改善や効率化を推進する。 | 多忙化改善PT | 多忙化改善に向け学校全体として業務の改善や効率化が図られたと感じた教員の割合が<br>A　70%以上である<br>B　60%以上である<br>C　50%以上である<br>D　50%未満である | D<br>(30%) | コロナ禍による新たな授業形態の構築（オンライン授業等）や消毒作業等などで業務が増加した。反面、外部講師招聘の講義や校外学習及び演奏会等の中止により軽減された業務もあり、トータルすると時間外勤務時間は昨年度とほぼ横ばい状態である。スクラップできる業務を洗い出すことが必要である。 |
| | **学校関係者評価委員会の評価** | | | | ・教員の多忙化改善につなげるために、コロナ禍がおさまれば保護者も協力できる面が多々あり支援したい。 | | |
| | **学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策** | | | | ・教員の多忙化改善につながる保護者との連携した取組を検討する。 | | |